

編集後記

今回の特集は「脳性麻痺の在宅リハビリテーション」である。この特集を編集するにあたり、種々の考え方のうち、どれを採用しようか、しばらく迷ったが、御覧の通りの内容となった。各々の著者が平生の活動について報告されたものだけに、見過ごすことのできない厳粛な問題があり、内容の充実した号となったことは私自身にとって大変喜ばしいと同時に、著者に厚く御礼を申し上げたい。

巻頭言では福田教授が大学におけるリハビリテーション医学教育について論じておられる。リハビリテーション医学が盛んになってきているのにこの方面を志す若い医師達の数がまだまだ少ない、専門医の数もある程度は必要で、少なれば少ないで放置できるものでもなく、より多くの若い医師の積極的な参加を希望する。

畑野氏の論文は10号に引きつづき興味深い。前回のものとは異なったもので、氏の精力的な研究には敬意を表するものである。

私も共著となっている長尾氏の論文はアキレス腱反射の定量化の試みの1過程と考えられる。筋のトームスの問題や誘発法について、さらに今後の研究が必要であろう。

佐渡山氏のバイオフィードバックに関する工夫ではフィードバック効果を得るためには患者の興味を引きおこさねばならない点を考慮に入れミニコンを利用したもので面白い。さらに多くの工夫がコンピューター利用により可能であろう。

今田氏の紹介記事は現在の身体障害者福祉法の問題点と今後について、身体障害者福祉審議会の中間報告をもとに論じられたもので平生この方面に関心の少なかつた私には、教えられた点が多かった。

講座2編も加え、充実した11号を読者にお届けできたことについて各著者に御礼を申し上げますと同時に、私自身は大任の一端を果たすことができたので、ホッとしている。

なお読者からの御注意をいただいたので、ここに併記しておきたい。御注意の内容は各論文の最初の頁にある論文名、所属の英訳で、その中に時々誤ったものがあるということである。私共の不注意を御詫びすると同時に、論文を御投稿下さる時には誤まりの有無を御検討の上正確な英訳を付記して下さいようお願いする。

(明石 謙)

次号予告(第9巻第12号)

特集 国際障害者年

完全参加・平等・Rehabilitation 国療・東京病院 砂原 茂一
国際障害者年に関する国内の動向：
国際障害者年日本推進協議会の活動を
中心に..... 国際障害者年日本推進協議会 松 友 了
国際障害者年に関する国際的な動向..... 総理府 丸 山 一 郎
国際障害者年と今後のリハビリテーション
医学の展望..... 東大 上 田 敏

巻頭言

国際障害者年の明日..... 厚生省 板 山 賢 治

研究と報告

脱神経筋に関する実験的研究..... 広大・整形外科 畑野 栄 治・他
立位時および歩行時床反力の
分析と応用..... 国立身障者リハセンター 榛 葉 武・他
MODAPTS 法による作業能力評価、
健常児と脳性麻痺児の比較..... 愛媛整肢療護園 三 宅 広 子・他

調 査

身体障害者福祉法により支給された
車椅子の追跡調査..... 岡大・整形外科 武 智 秀 夫・他

講 座

リハ医のためのリウマチ・膠原病入門
12：パーチェット病..... 帝京大・第二内科 橋 本 喬 史
脊 柱 6：加齢に伴う脊柱の変化... 自治医大・整形外科 渋谷 光 柱・他

一頁講座

リハにおけるコンピュータの応用
12：マイクロコンピュータの利用法... 労災義肢センター 土 屋 和 夫

第9巻 キーワード・インデックス、総目次

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
沢 村 誠 志
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
武 智 秀 夫
田 中 照 子
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)